

方針	数値指標	目標値の設定根拠	目標値設定の考え方	単位	目標値(R7)	計画書記載現状値(H29)	令和3年度実績値	令和4年度実績値	令和5年度実績値	評価取組	【参考】現状値の算出方法	備考
基本方針① 町民の生活と交流を支える地域公共交通の構築	路線バス利用者数	路線バスの利用者数から、町民の日常生活に必要な移動手段が維持・確保されているかを評価する。	現状維持	人／日	844	844	596	547	609	新鶴線については１日あたりの利用者が10名を下回り、特に利用が少ない状況となっている。令和6年度に行う調査や関係者との協議により、町民需要に即した運行経路等を検討する。また、引き続き園児向けのバス乗り方教室や出前講座等を開催し、バスの利用促進を図る。	令和５年度6月、8月、10月、3月に実施した乗降調査結果（会津乗合自動車㈱提供）の平均	
	美里あいあいタクシーの利用者数	地域内交通の利用者数から町民の移動ニーズに即しているかを評価する。	増加	人／年	28,000	24,954	22,235	23,411	23,940	R4にAI配車システムを導入し、目的地まで乗り継ぎなしで行けるフルデマンド方式になったことにより、利便性が向上し、利用者は年々増加傾向にある。一方、高齢者の移動手段として定着はしたものの、利用者が固定化している状態であるため、新規利用者を増やす必要がある。 利用者を増やすため、令和６年度は町民需要に合わせた町外医療施設への実証運行を行う。また、新規利用者の獲得に向け、各種情報媒体やノベルティ、出前講座等によるPRを行うとともに、教育機関での課外授業における利用を促す。	平日利用者数：20,359人 休日利用者数：3,581人	
基本方針② 利用者ニーズに合わせた便利で快適な公共交通の構築	ユニバーサルデザイン車両の導入率	利用しやすい環境づくりが図られているかを評価する。	増加	%	100	60	82.1	75	79	引き続き、交通事業者の協力のもと、車両更新の際にはユニバーサルデザイン車両の導入を促進する。	美里あいあいタクシー：車両数6台、うちUD車両数2台（R4 6台のうち3台UD） 路線バス：町内運行車両数23台、うちUD車両数21台（R4 26台のうち21台UD） 合計：町内運行車両数29台、うちUD車両数23台＝79%	
	交通拠点における乗り継ぎ環境の整備箇所数	乗り継ぎ拠点の整備状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	ヵ所	8	3	6	6	6	計画策定当初に想定していた①じげんプラザ、②本郷庁舎、③新鶴庁舎、④情報センター「まってらん処」、⑤高田インフォメーションセンター、⑥本郷インフォメーションセンターの6箇所については、路線バスの①～③敷地内への乗り入れ、デマンド交通の時刻表撤廃等によりまちづくりと連動した乗り継ぎ環境が整備されている状態である。 ⑦会津高田駅、⑧新鶴駅については、引き続き地域住民が利用しやすいダイヤをJRに要望する、二次交通としてのデマンド交通の周知を図るなどし、乗り継ぎ環境の整備を進める。	・整備済 ①じげんプラザ ②本郷庁舎 ③新鶴庁舎 ④情報センター「まってらん処」 ⑤高田インフォメーションセンター ⑥本郷インフォメーションセンター ・未整備 ⑦会津高田駅 ⑧新鶴駅	R2.10.1～本郷庁舎、新鶴庁舎へ路線バスの乗り入れ開始
	交通拠点における乗降者数	乗り継ぎ拠点の利用状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	人／日	50	39	27	28	26	各公共交通機関の接続強化を図るため、デマンド交通については、令和４年11月から、希望時間に応じた予約方法を可能にし、他公共交通機関への接続強化を図ったが、交通拠点における乗降者数はAIシステム導入前である令和３年度から横ばい状態である。	・路線バス乗降調査結果及び美里あいあいタクシーデータベースから算出 ・算出日は乗降調査に近い日付で算出 ・主要な交通拠点（じげんプラザ、情報センター「まってらん処」、本郷庁舎、新鶴庁舎、高田インフォメーションセンター、本郷インフォメーションセンター）における路線バス及び美里あいあいタクシーの乗降者数	
基本方針③ まちづくりと連動した地域公共交通の構築	多様な分野・主体と連携した利用促進の取り組み件数	多様な主体と連携した利用促進策の取り組みが展開されているか評価する。	増加	件／年	3	1	4	12	9	例年教育分野との連携により、町内４こども園の園児に向けてバスの乗り方教室及びギャラリーバスを開催し、バスの利用促進を図っている。今年度も引き続き、教育分野と連携し、町内公共交通の利用促進を図る。 また、観光分野と連携し、二次交通としてのデマンド交通の利用促進を図る。	教育分野との連携により、町内４つのこども園にて路線バスの乗り方教室を実施し、路線バスの利用促進を図った（４件）。 また、町内４こども園に只見線のノベルティグッズを配布し、只見線の利用促進を図った（４件）。 観光分野と連携し、只見線のノベルティグッズとデマンド交通チラシを観光客へ配布し、只見線と二次交通であるデマンド交通の利用促進を図った（１件）。	
基本方針④ 将来的に持続可能な地域公共交通の構築	公共交通の運行に関する町負担額の維持	持続可能な公共交通網が形成されているかを評価する。	現状維持	千円／年	26,272	26,272	44,096	53,008	58,473	燃料費の高騰やデマンド交通システムランニングコストの増額、車両借り上げ料の増額等により年々増加しており、令和５年度についても目標値を大幅に上回っている。町の負担額を減少させるため、引き続き町内公共交通の利用を促進するための施策（出前講座、バス乗り方教室）の展開やデマンド交通の利便性向上に向けた取組を行う。加えて令和６年度は町内全域の交通実態調査を行い、調査結果をもって交通体系の見直しを行う。	デマンド交通：32,686,670円（R4 32,117,588円） 路線バス：25,786,425円（R4 20,891,291円）	
	公共交通主体の利用促進の取り組み件数	多様な主体の連携・協働を取り組み内容から評価する。	増加	件／年	10	5	7	23	13	ギャラリーバス運行回数の減少（R4：6回）及びデマンド交通予約アプリ使い方説明会（R4：7回）を実施しなかったことにより、前年度と比較して取組件数が減少している。一方、教育分野、観光分野、情報分野等、多様な主体と連携した取組は継続して実施していると評価されるため、引き続き各分野の協力を得て利用促進の取組を実施していく。	①路線バス乗り方教室の実施（認定こども園ひかり、認定こども園きぼう、本郷こども園、新鶴こども園）計４回 ②ギャラリーバスの運行（高田線、本郷線、新鶴線）計３回 ※こども園の夏休み期間に併せて実施。 ③只見線応援キャラクター「キハちゃん」を活用したノベルティグッズの作成 計１回 ④只見線の二次交通としてのデマンド交通PR（上記ノベルティと合わせ、デマンド交通チラシを配布） 計１回 ⑤情報発信 広報紙記事掲載（只見線全線再開記念式典の様子、会津西陵高校生向け霧幻鉄道映画上映会の様子） 計２回 ⑥只見線利用者へのおもてなし（会津新富座と歩む会と会津西陵高校生による花壇整備、会津西陵高校生による会津高田駅のトイレ清掃） 計２回	